

ロボスクールの未来

sanukisoba

ロースクールは合格者体験報告会などをやるよりも、「法曹をあきらめた人、法曹になれなかった人」の講演会をやって多様なライフプランを提示するべきだと思う。いや、冗談じゃなく真面目な話で。

冷静に考えてみよう。現在の司法試験の合格率は大体2割5分前後だ。例えば合格者数こそ上位にいても合格率の極端に低い某大学（これは全国に恥をさらしているのだぞ）なんかたぶん学年の7/9くらいは法曹になれないだろう。

すると、ロースクールを出ても法曹になれない人間の方が圧倒的に多数だ。

じゃあ、そんな彼らは一体どういう人生を歩むというのか。

オーケーオーケー、ロースクールに合格するくらい頭のいい僕らは就職だってできるはず。そう言いたいんだろう。

でも、世の中そんなんじゃないんだ。残念ながら。

「ロースクール出ても法曹になれない無能なんかいらない」こんなこという企業は問題外だとしても現実的には若干これに近いのが確かなところ。

まず、ロースクール出て法律に詳しいです！といったところで実は日本の企業はエキスパートを採用しようとは思っていない。専門は専門家に任せればよくて企業の中ではどの仕事を与えてもそれなりにそつなくこなす人材を求めていると言ったほうがいだろう。

つまり、どんなに法律に詳しくあってもそれはアドバンテージにはならないのだ。法律に詳しい人間がほしければ弁護士に依頼する。

次に、年齢の問題がある。最短でロースクールを卒業しても大体2歳くらい周りの人とは歳が離れている。院も出ているから初任給は若干高い。そして社会経験はほとんどない。そんな人間を積極的に採用する企業というのはなかなかない。ただでさえ院卒の就職が厳しくなっているのに、ロースクール生は例外だと思うのはいささかお花畑である。

「でも企業だって最近では学歴だけで判断しないでその人の能力で！」それはその通りかもしれない。いや、その通りだろう。でも、ロースクールって何も生産しないのに税金だけバカスカ喰う場所だってのは考えたことがあるだろうか？大学は高等教育機関として生産性のある行為をしているし、学部生は学部生でそれなりに生産しているのである。院生はそれに輪を掛けて生産性のある存在だ。じゃあ、ロースクール生は？ただ「勉強してました！」というだけでは企業は首を縦に振らない。残念ながら。え？専門に勉強してきたのに、って？それはそう思った君の頭があんまりよろしくない。最初からもう一度読んでみよう。

そして年齢の問題は最後にもう一回りして襲い掛かってくる。法曹を諦めた段階の年齢を想像していただきたい。ローを卒業してから最長で5年、最短で3年。学部を卒業してから5~7年の歳月が経過している。一般企業で不利なのは先ほど述べた通りだが、今度は公務員までも敵に回る。公務員試験の年齢制限にひっかかるかひっかからないかギリギリのラインに達してしまうのだ。

僕は別にロースクール生に恨みがあるわけじゃない。ロースクール生は嫌いだしろくなやつがいなかったと今でも思ってるけど、それでもやはり自分より若い人間が大変な思いをするのを見るのはあまり好きじゃない。ロースクール生だからって苦労して当然というのはフェアではない。かといって今の日本社会が早急に変わるとも思えない。

だったらやはりロースクールのやるべきことは、法曹になれなかった人間のフォローなんじゃないのかな。ロースクールは法曹にならない人の講演会や「ロースクール卒業後の人生講座」みたいな感じで人生設計に関する何かを必修にすべきだと思うよ。もちろん、そんなの受けても「それでも俺は受かるもんね」と思う人が圧倒的に多数だろう。でもね、圧倒的多数は落ちるんだ。これからの時代現実化したリスクのリカバーはかなりコストがかかる。だからこそロースクールはそのあたりを拡充させなきゃいけない。

ゴールド免許の更新講習でも事故を防ぐための勉強はするでしょ？それと同じ。そしてゴールド免許の人が事故起こす確率よりもきっと、法曹になれない確率の方が高い。不安になる必要はないけど逃げ道を想定しておくのは大事だと思うよ。真面目な話でした。

まあ、大学が勉強以外の面倒をみなければならないなんて・・・ってのはありますけどね。